

■2014 年度予算案のポイント

2013 年度決算額をベースに考え、財政立て直しのために理事会で議論し決定した対策および調整結果を加味し、予算案を作成した。

1. 会費収入の向上

昨年度の会員増減が±0 人であったことから、一般会員の勧誘に力を入れつつ、以下の団体会員・賛助会員の獲得を目指す。

(ア) 団体会員 (30,000 円/年) の獲得

現在 4 団体が団体会員として登録しているが、2014 年度に新たに 2 団体の登録をめざし、勧誘活動を行う

(イ) 賛助会員 (1 口 5 万円) の獲得

現在、賛助会員数はゼロで、賛助会員の特典が不明瞭であることから、賛助会員規約を新たに作成し、次期総会に諮る。また、今年度中に 6 口の獲得 (30 万円) を目指す

2. F 誌バックナンバーの販売

(ア) 大会期間中に非会員に向けて販売を行うほか、新旧理事が購入し会員勧誘に利用

(イ) 新たに発行するフォーラム誌については、定価を 1,000 円に変更

3. 会誌発行費

(ア) 「野生生物と社会」誌印刷費

1 巻 2 号 (特集号) 500 部の料金 (確定) : 346,000 円+税 27,680 円=373,680 円

2 巻 1-2 号 500 部 62 頁 (通常号並) として見積額 : 241,500 円 (税抜、1 号分)
× 2 号分=483,000 円 (税抜) + 税 38,640=521,640 円

(イ) フォーラム誌印刷費

550 部見積結果 : 422,950 円 (税込) × 2 号分

4. 会誌発送関係費

学会誌 3 号発行 (1 巻 2 号、2 巻 1 号、2 巻 2 号) を見込んで、昨年度比 1.5 倍に設定。フォーラム誌と同時発送とする。

5. 委託料調整

6 月 17 日に新役員 3 名で東京の毎日学術フォーラム事務所にて H26 年度の契約内容の確認、調整を行った結果。

6. 各部会費の削減

青年部会・行政研究部会の活動支援金については、一律半額とする

7. 大会支援金・大会会計関係

支援金、大会会計の事前繰入・大会後の繰戻については、ここ数年活用されていないことから、予算に含めない。